

大阪大学との共同研究に関するお知らせ

～人工核酸モノマーおよびそれを用いた核酸医薬の商業製造を見据えた製造方法の開発～
保土谷化学工業株式会社（代表取締役社長：松本 祐人、以下、「当社」）は、国立大学法人大阪大学（総長：熊ノ郷 淳、以下「大阪大学」）大学院薬学研究科（山口卓男 准教授）と、「人工核酸モノマーおよびそれを用いた核酸医薬の商業製造を見据えた製造方法の開発」を目的とした共同研究（以下「本共同研究」）を開始しましたので、お知らせいたします。

記

1. 背景と社会的意義

- ・核酸医薬は、疾患に関与する遺伝子や RNA を標的として作用する医薬品であり、従来の低分子医薬や抗体医薬では十分にアプローチすることが難しかった疾患領域に対する新たな治療手段として期待されています。
- ・近年、アンチセンス核酸、siRNA などの開発が国内外で進展しており、これらの社会実装に向けては、有効性・安全性の向上に加え、高品質な原料・中間体を安定的かつ効率的に製造する技術の確立が重要な課題となっています。
- ・また、近年の地政学的リスクやパンデミックの経験から、医薬品の安定供給に不可欠な国内サプライチェーンの強靱化、および製造の内製化・国産化への要請が急速に高まっています。
- ・本共同研究は、国内のアカデミアが誇る最先端の知見と、国内化学メーカーの製造インフラを直結させることで、これら社会的課題の解決に取り組むものです。

2. 共同研究の目的と双方の狙い

- ・本共同研究では、大阪大学が有する核酸医薬の高度な分子設計および評価技術と、当社が長年培ってきた精密有機合成、機能性材料開発、およびプロセス開発に関する強固な技術基盤を融合します。
- ・これにより、将来的な商業製造（大量生産）に耐えうる実用的な人工核酸モノマーおよび核酸医薬の製造プロセス確立を目指します。

【大阪大学大学院薬学研究科（山口卓男 准教授）の特徴と狙い】

- ・大阪大学の大学院薬学研究科 生物有機化学分野は、独創的な人工核酸の分子設計において世界をリードする研究実績を有しています。
- ・本共同研究を通じて、研究室レベルの基礎研究成果を「実際の医薬品として患者へ届けるための商業製造プロセス」へと昇華させる、いわゆる「基礎研究から医療実装への架け橋」を構築します。これにより、最先端のアカデミア知見が迅速に社会還元されるモデルケースとなることを目指します。

【当社の特徴と狙い】

- ・当社は、2026 年度を初年度とする中期経営計画「コード 2030 (CODE/CHORD2030)」において、VISION「独創をミガキ、共創でヒラク」を掲げ、「大胆な構造改革、ポートフォリオの転換」や「非連続な成長を勝ち取るための仕掛け」を推進しています。
- ・特に、当社が培った独創的技術の応用展開と外部研究機関等との共創を通じ、成長戦略の柱である「核酸医薬 CDMO（医薬品開発製造受託）事業」への参入を強力に進めています。
- ・本共同研究は、既に開始している有機合成薬品工業株式会社との協働に続く共創の実践であり、自社の独創的な技術基盤と融合させることで、同事業における技術的優位性を確立するための極めて重要な取り組みとなります。

3. 本共同研究における役割

	主な役割と担当範囲
大阪大学 (大学院薬学研究科)	・次世代核酸医薬候補の高度な分子設計 ・人工核酸モノマーの適用可能性および最適化に関する助言・学術的指導 ・当社が合成した核酸医薬候補の純度、構造、性状、機能に関する評価試験
当社とグループ各社 ・ SFC Co., Ltd. ・保土谷コントラクトラボ(株) ・桂産業(株)	・商業製造(スケールアップ)を見据えた合成ルート設計・改良 ・反応条件の最適化および高純度精製プロセスの開発・検討 ・大量生産時における製造効率、再現性、不純物プロファイル、工程安全性の実証評価

※参考リリース：[有機合成薬品工業株式会社との核酸医薬品受託製造事業における協働について](#)

4. 本件に関するお問い合わせ先

保土谷化学工業株式会社
経営企画部コーポレート・コミュニケーション室
Email: ir@hodogaya.co.jp

以上